

### まずは「知る」ことから始めよう!

半壊なども含めると、さらに多数の被害が考えられます。しかし「想定」は、一定条件のもとに試算した数値にすぎません。「想定外」がおこることも…。

「地震防災マップ」(広報5月15日号と同時配布)を活用し、自分の住んでいる地域の特徴を把握する、避難ルートを確認するなど、個人・家庭で、地域でどんな対策を進めたらよいかを考えていきましょう。

- ① 南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、規模が大きかったものを重ねあわせたモデル(発生頻度は100~200年程度の間隔)
- ② 南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波を想定(発生頻度は1000年に1度か、それよりもっと低い。)

## 高浜市の被害想定

(出典：愛知県防災会議 平成26年5月公表資料)

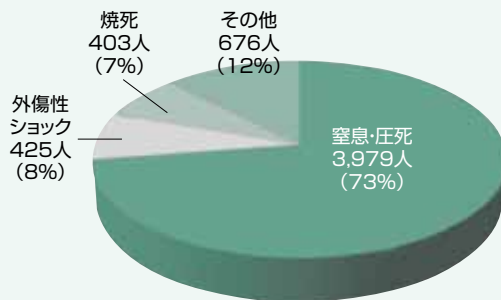
	①過去地震 最大モデル	②理論上 最大モデル
想定震度	震度6強	震度6強~7
津波高	3.2m	3.2m
津波到達時間	77分(30cm高)	75分(30cm高)
帰宅困難者数	市町村別 データなし	約1,800~ 約2,300人
避難者数	1日後	約5,000人
	1週間後	約11,000人
	1か月後	約10,000人
建物全壊 焼失数	揺れ	約500棟
	液状化	約10棟
	浸水・津波	約20棟
	地震火災	約500棟
	計	約1,100棟

建物数の  
約7%に相当

建物数の  
約36%に相当

### 阪神・淡路大震災における死因

※死亡者(直接死) 5,483人中



## どんな対策が大切?

### 被害を未然に防ぐ「減災」に取り組もう!

「阪神・淡路大震災」における死因の1位「窒息・圧死」と3位「焼死」の大半が、建物倒壊・家具転倒によるといわれています。また、近年発生している地震における負傷原因も、家具・家電などの転倒・落下によるものが3~5割を占めているといわれています。

負傷すれば、避難の遅れや要救護者の増加につながります。被害をできるだけ少なくするための事前対策「減災」が大切です。

## できることから取り組んでみよう! ~地域で行われているさまざまな取組み~

防災リーダー養成講座



▲みんなで対策を話し合おう!

総合防災訓練



▲タオルかけなら気軽に参加できるね

非常持出袋の点検



▲定期的の中身を確認!

起震車揺れ体験



▲震度7ってこんなに揺れるの!?



煙避難体験

▲真っ白で前が見えないよ~



防災キャンプ

▲食事づくりは私たちに任せて!



タカハマ!まるごと宝箱

▲伊勢湾台風の記憶を語り継ごう!



まち点検

▲どこに何があるかを確認

問合せ先 岡都市防災グループ ☎52-1111 (内線228)